

- 1 題材 「良好で豊かなコミュニケーションについて考え、実践しよう」  
○内容(2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材について

集団生活を通して心身が著しく発達していく中学生にとって「コミュニケーション能力」は他者との人間関係に大きな影響を与えるものであり、良好で豊かなコミュニケーションのあり方について理解し、そのスキルを身につけ、主体的に実践することが、将来の社会生活を支える基盤となる。中学校学習指導要領解説(特別活動編)では、第3章(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」において、望ましい人間関係の在り方、豊かな人間関係づくりと自己の成長、自己表現とコミュニケーション能力などの題材を設定し、体験発表を取り入れた話し合い、自己表現力やコミュニケーション能力を高める体験的な活動、学級成員相互の理解を深める活動などを通して、学校生活や社会生活において互いを尊重し合うことが重要であることを理解し、自己の個性を肯定的にとらえ、自他のよさや可能性に気づき、それらを生かして協力し合える人間関係を築くとともに、他者への思いやりを深め、共に生きる人間として豊かに成長しようとする態度と資質・能力の育成を目指している。

本校の教育目標「なかまづくり ひとりづくり」は、「なかまづくり＝人権が尊重される教育(人権が大切にされた環境で学ぶ)」と「ひとりづくり＝人権としての教育(子どもたちがもっている能力を最大限に伸ばす)」の確かな実現を目指すものであり、この両側面の実現を通して「人権のための教育(豊かな人権文化を築く資質を備えた人間の育成)」に取り組んでいる。「なかまづくり ひとりづくり」を基盤として、本校の人権教育テーマ「伝えること・わかりあうこと ～言葉を大切にし、コミュニケーション力をつける～」の推進を図ることを目的として、本題材を設定した。

本題材では、自分たちの普段の会話のやり取りをふりかえらせながら、良好で豊かなコミュニケーションが成立するために必要な事柄を考えさせ、私たち一人ひとりが多様な個性ある存在であることを前提としたコミュニケーションのあり方を考えさせたい。

併せて、第三者の「架け橋対応」が、よりよい人間関係づくりや仲間づくりにつながるとともに、「コミュニケーションの困難さ」を抱える児童生徒の二次障害を防止することに効果があると考え、伝え合う学習や参加体験型学習の手法を取り入れることで、学級集団内で生徒同士が互いにかつ主体的に「架け橋対応」を実施できるようにしたい。

3 本時目標

- 個人それぞれの物事のとらえ方や受け答えは多様であることを考えることができる。
- 良好で豊かなコミュニケーションに必要な事柄を考えることができる。
- 架け橋対応(アドボカシー対応)を生徒同士が主体的にできるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

4 準備

ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、ワークシート

5 学習過程

	学 習 活 動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点 ◇評価（方法）※手立て
導入 5分	1 めあてを確認する。	<p>○「コミュニケーションをとる」とは、どんなことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合うこと。</li> <li>・意見を言い合うこと。</li> <li>・気持ちが伝わること</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎コミュニケーション</p> <p>人間と人間の間で、〈意志の疎通〉が行われたり、〈心や気持ちの通い合い〉が行われたり、〈互いに理解し合う〉ことが起きて、はじめて「コミュニケーションが成立した」といいます。</p> </div> <p>○今日は、「コミュニケーションをとるために必要なこと」について学習します。</p>	<p>・自分の考えや、自分が心掛けていることを含めて、活発に伝え合い、課題意識を持たせる。</p> <p>・「情報の伝達」のみに止まらず、「心情の交流」、「相互理解」等が円滑になされることが、人と人とのコミュニケーションに重要であることを考えさせる。</p>
展開 5分	2 文脈や状況によって言語の意味が変化することを理解する。	<p>○次の会話で、二人は何について話し合っているのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Aさん「ぼくは、キツネ」 Bさん「わたしは、タヌキ」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の物まねゲーム？</li> <li>・うどんとか蕎麦のメニューのこと？</li> </ul> <p>○次のような場面での会話だとしたら、どんな意味になるでしょう。</p> <p>【例1】学級会の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会の劇の役割を決めている。</li> <li>・キツネの役、タヌキの役のことだ。</li> </ul> <p>【例2】食堂の前に並んでいる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食のメニューについての会話だ。</li> <li>・キツネうどん、タヌキ蕎麦のこと。</li> <li>・キツネ丼、タヌキうどんもお勧めだよ。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎良好なコミュニケーション成立の要件①</p> <p>場面や状況によって、言葉の意味は変わることが理解することが大切である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セリフ付き人物イラストを示すとともに、T1とT2が演じる。</li> <li>・様々な場面や状況を想定させ、自由に発言させる。</li> <li>・個人の考え方やとらえ方は多様であることを考えさせる。</li> <li>・図版イラスト、またはICT機器を活用したパワーポイントで視覚的インパクトを与える。</li> <li>・T1とT2が再演する。</li> <li>・文脈や状況によって、同じ言葉でも表す意味が変化することをとらえさせる。</li> <li>・同じ言葉でも、会話の場面やそのときの状況によって意味は異なるものであり、同じ言葉に対する一人ひとりのとらえ方や判断も様々であることを理解させる。</li> </ul> <p>◇成立要件①が理解できたか。（観察）</p> <p>※机間指導でポイントを助言し、個別対応を行う。</p>

<p>展開 10分</p>	<p>3 言葉の裏にある話し手の意図を理解する。</p>	<p>○町内のバス停で知らない人から「今何時かわかりますか?」と聞かれたら、あなたなら何と答えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前10時20分です。</li> <li>・時計がないのでわかりません。</li> <li>・わかりますよ。</li> </ul> <p>○AさんとBさんは次のように答えました。二人の回答にはどのような違いがあると思いますか。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Aさん「わかります」 Bさん「午前9時50分です」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aさんの回答は、Yes / Noで答えている。</li> <li>・Aさんは「わかりますか」と聞かれたので、その通りに「わかります」と答えている。</li> <li>・Bさんの回答は、「この人は時刻を知りたいんだな」と想像して答えている。</li> <li>・Bさんの回答のほうが、丁寧でうれしいと思う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◎良好なコミュニケーション成立の要件②</p> <p>相手の意図を推察することが大切である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、自分ならするであろう答え方を考えさせる。</li> <li>・他にどんな応じ方があるかを考えさせ、発表させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1とT2が演じて回答の違いを感じ取らせる。</li> <li>・回答としては、ABとも間違いとは言えないことをおさえる。</li> <li>・ペア活動で考えさせる。</li> <li>・どちらの対応が、より丁寧か、相手から感謝されるかという視点を与え、深く考えさせる。</li> </ul> <p>◇話し合いに参加できているか。 (観察)</p> <p>※机間指導により、話し合いを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と交わす会話では、言葉の意味を理解すると同時に、その言葉に込められた相手のメッセージを推察すると、コミュニケーションが円滑となることを理解させる。</li> </ul> <p>◇成立要件②が理解できたか。 (観察)</p> <p>※机間指導でポイントを助言し、個別対応を行う。</p>
-------------------	------------------------------	--	--

<p>展開 25分</p>	<p>4-(1) 架け橋対応(アドボカシー対応)を知り、実践できるようになる。</p>	<p>○ある学級で、二人の生徒のいさかいが起こりました。AさんとBさんそれぞれの理由や言い分は、次のようです。</p> <p>○このあと、AさんとBさんはどうなったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・殴り合いのケンカになった。</li> <li>・無視し合って、一言も口を利かない関係。</li> <li>・お互いの誤解を解いて仲直りした。</li> </ul> <div data-bbox="497 459 1061 1025" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Aさん 「朝読書が始まるので、席に着こうと机の間を歩いていたら、着席していたBさんの腕に体が当たってしまった。謝ろうとしたら、Bさんがものすごい目つきで睨んでいたの、とっさに言葉がでなかった。Bさんに、「何するんだよ。本が破れただろ。」と怒鳴られた。どうやって弁償しようかと考えていたら、Bさんはニヤニヤしながら、僕が一番言われたくないことを言った。僕は頭にきて「わざとしたんじゃないだろ」と言い返して、自分の席に座った。そのあとも、Bさんは何回もこちらを向いて、睨みつけてくる。今度何か言ってきたら、ぶん殴ってやる」</p> </div> <div data-bbox="497 1064 1061 1720" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Bさん 「その日は、成績のことでお母さんから叱られて、朝から機嫌が悪かった。イライラしながら朝読書をしていたら、Aさんが僕の腕にぶつかってきた。思わず睨みつけ、怒鳴ってしまった。Aさんが黙ったままなので、ますます頭にきて「何で謝らないんだよ。だいたいお前は鈍くさいんだよ。だから、短距離走でいつもビリになるんだよ」と言ってしまった。Aさんは真っ赤な顔になり、何かしゃべって、プイと席に帰っていった。「何を言ったんだろう」と思ったが、先生が来て朝学活になった。そのあとで、「しまった。言い過ぎたかも」と考えた。その日は、Aさんのことが気になり、何度も視線を向けたが、ことごとく無視された。どうしよう。」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、T1T2が演じて状況を理解させる。</li> <li>・生徒の身近に起こり得る事象であるので、臨場感あふれる好演を行う。</li> <li>・自分や周囲にも同じようなことがなかったかを考えさせる。</li> <li>・資料を配布して、第三者であるCさんに語りかけているように演じる。</li> <li>・双方の誤解の元である事柄は特に印象づけるように演じる。</li> </ul>
-------------------	---	---	---

<p>展開</p>	<p>4-(2) 架け橋対応(アドボカシー対応)を知り、実践できるようになる。</p>	<p>○あなた(Cさん)はAさんとBさん共通の友人です。あなたは二人からそれぞれの理由を聞き、何とか仲直りさせようと決心しました。あなたはAさんとBさんにどのようなアドバイスや助言をしますか。</p> <p>〈Aさんに対して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bさんは、朝からお母さんとけんかしてイライラしていたんだって。</li> <li>・あなたが気にしていることと知らずに、つい言い過ぎたと反省しているよ。</li> <li>・あなたの様子が気になって、いつ謝ろうかと悩んでいるよ。</li> <li>・でも最初にぶつかったのはあなたなので、それは謝ったほうがいいと思うよ。</li> </ul> <p>〈Bさんに対して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aさんは謝ろうと思ったけど、とっさに言葉が出なかったんだって。</li> <li>・本を弁償しなければと思ったそうだよ。</li> <li>・わざとぶつかったと誤解されて、とても悲しく思っているよ。</li> <li>・自分が一番気にしていることを指摘されてショックだったようだよ。</li> <li>・自分が悪かったと思っているなら、素直にあなたから謝ったらどうかな。</li> <li>・僕も、話合いに加わってあげるよ。</li> </ul> <p>◎良好なコミュニケーション成立の要件③</p> <p>コミュニケーションがうまくいかない場合は、第三者が架け橋となり、仲介することも必要である。</p> <p>〈架け橋対応(アドボカシー対応)〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 正しい情報の伝達</li> <li>② 感情の代弁</li> <li>③ 相互の誤解の解消</li> <li>④ 適切な言動のアドバイス</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動で考えさせる。</li> <li>・ホワイトボードに記入させ、発表させる。</li> <li>・具体的な実例を示して、理解を深める。</li> </ul> <p>・良好で豊かなコミュニケーションが成立する要件を、日常生活に活かすことが必要であることを理解させる。</p> <p>・生徒同士で主体的に「架け橋対応」をすることによって、仲間と気持ちよく過ごせることを理解させる。</p> <p>◇成立要件③が理解できたか。(観察)</p> <p>※机間指導でポイントを助言し、個別対応を行う。</p>
<p>まとめ5分</p>	<p>7 授業をふりかえる。</p>	<p>○今日の授業で大切だと感じたこと、これから自分が心掛けたいことなどをワークシートにまとめよう。</p>	<p>・授業をふりかえり、めあてが達成できたか、自分の生活をふりかえりながら自己評価をさせる。</p>